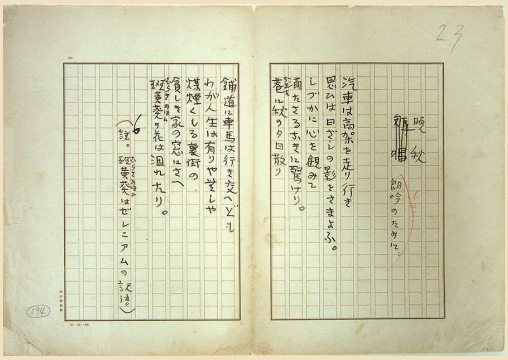
萩原朔太郎大全2022参加企画展

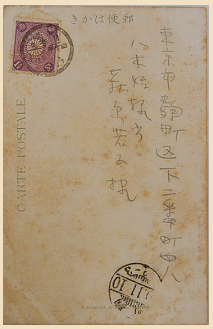
煩悶と運命

―朔太郎と熊本のゆかり―

明治19年（1886年）11月。
群馬県前橋の開業医 萩原密蔵夫妻に長男が誕生しました。
朔日に生まれ「朔太郎」と名付けられた男の子は、医業を継ぐべく
期待をかけて育てられます。のちに日本文学史に名を残す詩人・萩原朔太郎です。
前橋中学を卒業した朔太郎は第五高等学校に進学し、熊本へやってきました。
在学当時の書簡からは、親もとをはなれ無邪気な青春を送る様子や、
その裏で抱えていた「煩悶」、自分の「運命」への深い悩みをも
見て取ることができます。
本展では、熊本へ来た若き日の朔太郎と、当時の熊本に注目します。
また、朔太郎がのちに詩人となって交流した、北原白秋、丸山薫、蔵原伸二郎ら
熊本ゆかりの詩人たちについても紹介します。
没後80年の節目を迎えたこの機会に、
たしかにあった朔太郎と熊本のゆかりをひもとく展示会です。



萩原朔太郎自筆原稿「晩秋」＊



萩原朔太郎ハガキ（広瀬若子宛）＊
明治40年（1907年）11月

萩原朔太郎 ハガキ（萩原けい宛）＊
明治40年（1907年）11月11日消印

＊印の資料は、萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館の所蔵資料です。

関連行事

記念講演会

11月6日（日） 午後1時30分～午後3時
演題：「熊本ゆかりの詩人と萩原朔太郎 ―北原白秋・蔵原伸二郎・丸山薫―」
講師：岩本 晃代（いわもと・てるよ）

崇城大学教授。日本近代詩を専門に研究する。著書に『蔵原伸二郎研究』、『昭和詩の抒情 丸山薫・<四季派>を中心に』など。

会場：熊本県立図書館3F 大研修室
定員：50名（申し込み先着順）
参加無料
お申し込み先：096-384-5000（代表）
受付時間：9:30～17:00

記念対談 伊藤 比呂美×四元 康祐

11月19日（土） 午後1時30分～午後3時

©吉原洋一

伊藤 比呂美（いとう・ひろみ）
詩人。詩集に『河原荒草』（高見順賞）、『とげ抜き 新巣鴨地蔵縁起』（萩原朔太郎賞、紫式部文学賞受賞）、『道行きや』（熊日文学賞）。その他の著書に『よいおっぱい悪いおっぱい』『切腹考』『ショローの女』など。

©志田三穂子

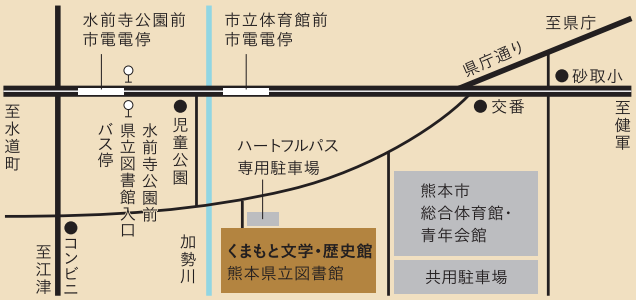
四元 康祐（よつもと・やすひろ）
詩人。詩集に『世界中年会議』（山本健吉文学賞、駿河梅花文学賞）、『噤みの午後』（萩原朔太郎賞）、『日本語の虜囚』（鮎川信夫賞）など。近著に『龍に呑まれる、龍を呑む――詩人のヨーロッパ体験』がある。

会場：熊本県立図書館3F 大研修室
定員：50名（申し込み先着順）
参加無料
お申し込み先：096-384-5000（代表）
受付時間：9:30～17:00

後日配信 くまもと文学・歴史館youtubeチャンネルで配信
令和4年12月21日～令和5年2月22日（予定）

ギャラリートーク

本展担当職員による展示解説
10月22日（土）・11月26日（土）
午後1時30分～午後2時
申込不要
くまもと文学・歴史館ロビーに集合



■JR熊本駅から路面電車で約30分（JR新水前寺駅から路面電車で約10分）
「市立体育館前」下車徒歩約5分
■バス「水前寺公園前・県立図書館入口」下車徒歩約5分
■駐車場：熊本市総合体育館・青年会館駐車場（共用）
■ハートフルバスをお持ちの方は、図書館北側の専用駐車場をご利用ください。
■駐車場に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

くまもと文学・歴史館
Kumamoto Museum of Literature and History
熊本市中央区出水2-5-1　TEL：096-384-5000（代表）

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、内容を一部変更、または開催しない場合があります。
最新情報はホームページでご確認ください。
https://www2.library.pref.kumamoto.jp/ くまもと文学・歴史館 検索